

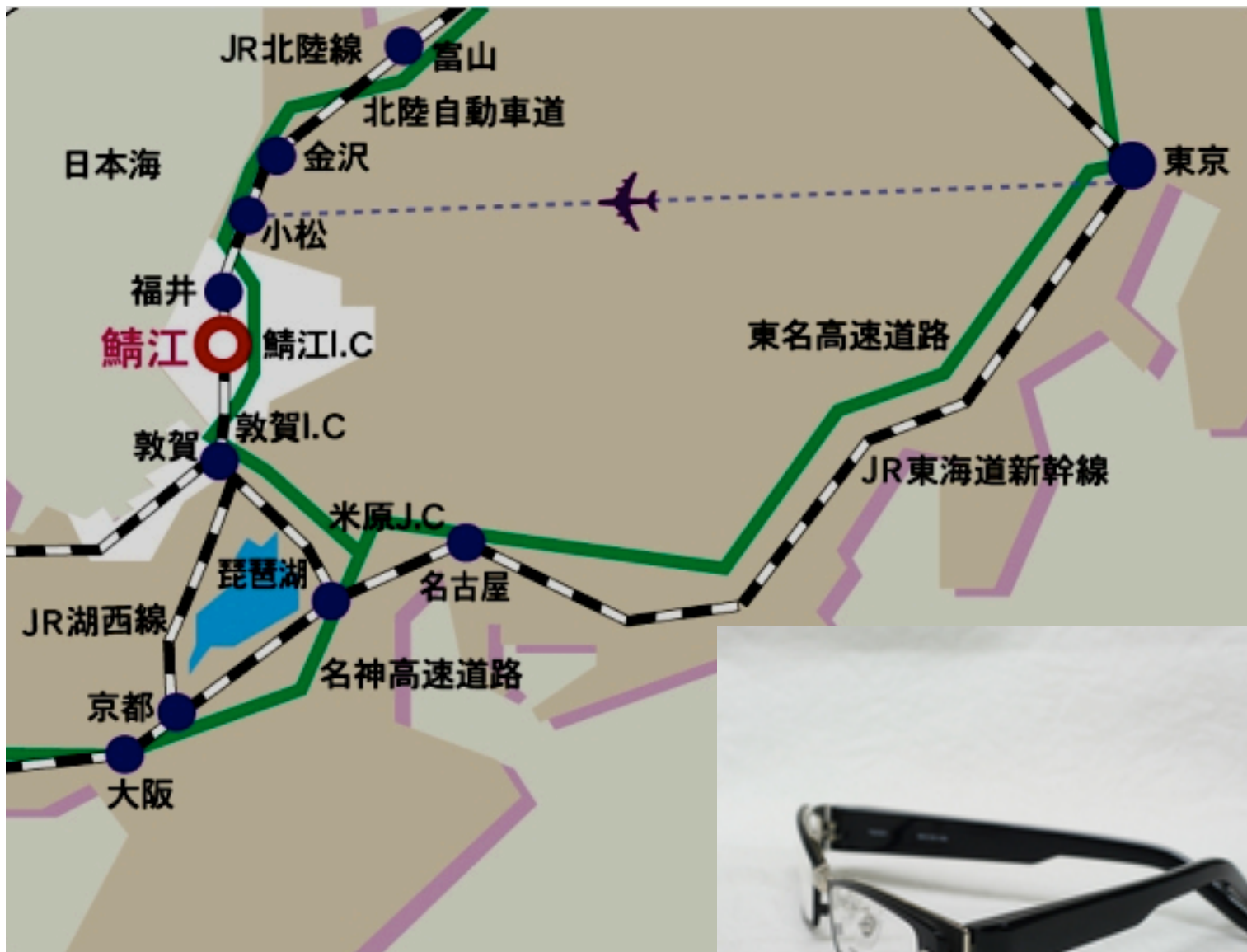


地方におけるまちづくりと 公務員

2011

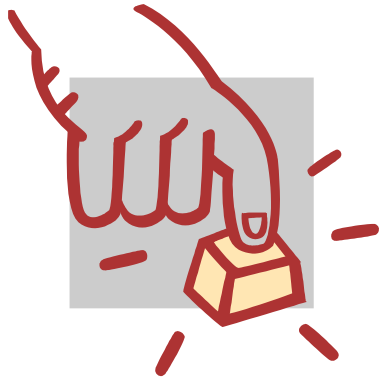
福井県鯖江市役所 市民協働課
福井県地方自治研究センター

橋本 和久



「さばえ」って、どこ？

● ● ● ご存知？

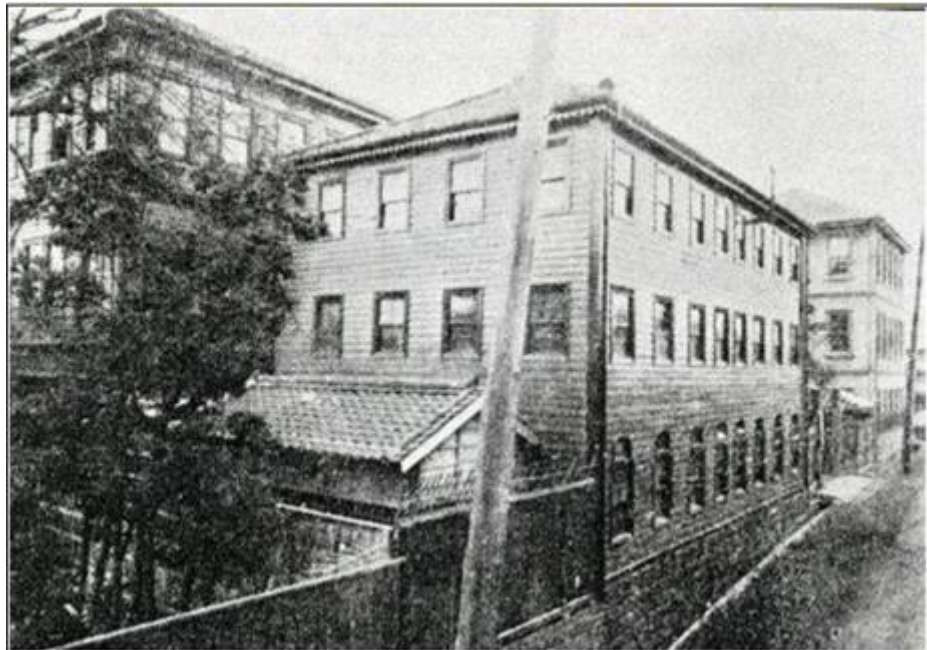


鯖江藩士 矢代 操 氏

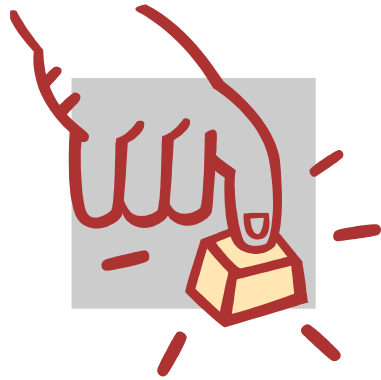
明治法律學校設立廣告

表裏同心協力して明治法律學校を設立し、其の
治十四年一月より敷設し、同二年に開校す。其の
か爲め、其の校長の如き者、其の志を以て、本邦に
法律士を養成するの如き者、其の志を以て、本邦に
敷設し、同二年に開校す。其の志を以て、本邦に
三十九年、其の志を以て、本邦に敷設し、同二年に
開校す。其の志を以て、本邦に敷設し、同二年に
十二月

岸本辰雄
宮城浩藏
矢代操



- ● ● この顔に見覚えは？・・・





福井からのビデオレター

■事例①

自治研と組合(連合)が中心となり、
地域ぐるみで公共交通＝福井鉄
道・福武線を守った活動

(越前市・鯖江市)

<登場人物>

- 福井鉄道労働組合執行委員長
- 連合福井鯖丹地域協議会議長
- 越前市自治連合会会長
- 丹南市民自治研究センター理事長



福井からのビデオレター

■事例②

自治研から始まる
住民との協働
そして市民の連携、
市民力を高める
仕組みづくり（鯖江市）

＜登場人物＞

- 鯖江市民主役条例推進委員会
- 地域のNPO法人理事長





1 「公務員」としての顔

○ 法律・条例・規則等に従って職務を実行する

公権力の行使、住民意思の形成

例えば・・・税金の徴収、許認可、計画の策定
補助金等の執行

※一般的なお役所仕事のイメージ

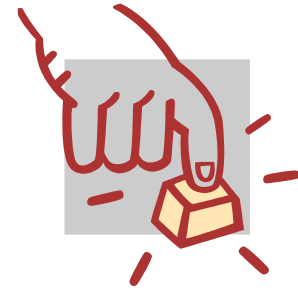
お堅い、真面目、はんこの多用、文書主義
融通がきかない、画一的、コストが高い



でも、純粹に法律に根拠があるといわれている仕事は

298 / 808事業 平成22年度鯖江市事務事業評価

鯖江市長の仕事は？



- ① 焼き「鯖」寿司を、羽田空港で販売した？
- ② 東京ガールズコレクションに出演した？
- ③ カーネル・サンダースに、眼鏡を進呈した？





1 「公務員」としての顔

- 公共サービスは、全国一律ではない
住んでいる自治体によってサービスは様々
- 例えば市民から次のような要望があったら？
子どもを保育所に入れたい。
高齢者だが出かけるときにサポートが欲しい。
サラ金に借金があり生活が苦しい・・・など
- 首長、議員、職員次第で
市民生活の質が変わる



1 「公務員」としての顔

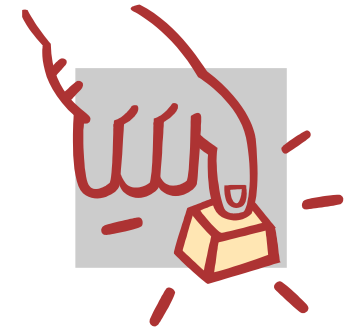
- 右肩上がりの時代は…
国・県からの指令を待ったり
隣の自治体の真似をしていれば良かった。
- もはや、市民・住民はそれを許さない時代に
「運命共同体」「地域主権」

自分たちのまちのことは

自分たちで決める。

＜あたりまえのことが、やっとあたりまえに＞

「新しい公共」って？ 1



- 私が目指したいのは、人と人が支え合い、役に立ち合う「新しい公共」の概念です。
- 「新しい公共」とは、人を支えるという役割を、「官」と言われる人たちだけが担うのではなく、教育や子育て、街づくり、防犯や防災、医療や福祉などに地域でかかわっておられる方々一人ひとりにも参加していただき、それを社会全体として応援しようという新しい価値観です。

第173回国会における鳩山首相所信表明演説
(平成21年10月26日)



「新しい公共」って？ 2

- 国民生活の現場において、実は政治の役割は、それほど大きくないのかもしれませんが。政治ができることは、市民の皆さんやNPOが活発な活動を始めたときに、それを邪魔するような余分な規制、役所の仕事と予算を増やすためだけの規制を取り払うことだけかもしれません。
- しかし、そうやって市民やNPOの活動を側面から支援していくことこそが、二十一世紀の政治の役割だと私は考えています。

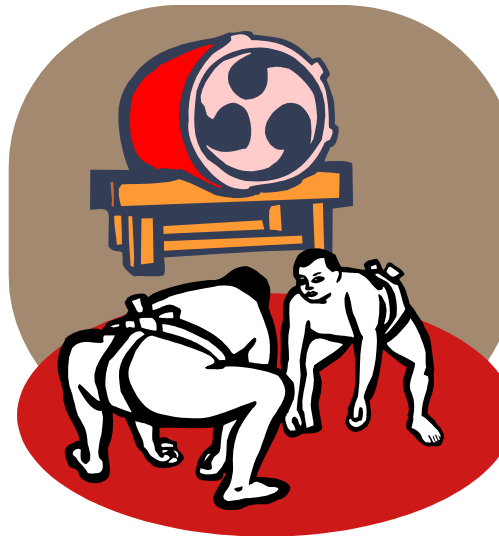
第173回国会における鳩山首相所信表明演説

(平成21年10月26日)

1 「公務員」としての顔

○ 行政側

- 市民は好き勝手なことを言う。
- 市民同士や地域のことは、自主的に活動してほしい。
- 行政が前に出ると、市民が引いてしまう。



お見合い状態・・・

○ 市民側

- 税金を払っているのだから、そっちでやって。
- 行政は対応が遅く、あてにならない。
- できない理由を探すのではなく、いっしょに考えて。



2 「労働者」としての顔

- 公務員も労働者
ストライキはできないけれど…
- 給料もあがらないけれど…
でも組合があるのとないのでは大違い
- 組合運動は民主主義の学校
まだまだ存在価値がある、と思う。
多分…



2 「労働者」としての顔

- 働きやすい職場を作る

 - 仕事に関して自由に発言できる

 - ディーセント・ワーク(尊厳のある働き方)

- 連繫を生む

 - 部署の垣根を越えてつながっていくことの大事さ

- 多様性を認め合う

 - 「みんなちがって、みんないい」

＜労働組合があることの意味を再認識＞



2 「労働者」としての顔

- 「格差社会」といわれる時代に
組合には、より積極的な
社会的意義があるのではないか
- 組合が守る安心・安全のルール
地域のすべての働く人のための「組合」に
- 組合、連合の地協
地域の人権センターに

埼玉県上尾市は、団地が広がる東京のベッドタウン。毎朝、多くの人が、通勤・通学でJR高崎線・上尾駅を使う。列車にのれば40分弱で上野である。

この平和な駅で1973年3月13日朝、暴動がおきた。運転士中心の労組「動労」が連日してきた超ノロノロ運転の「順法闘争」に利用客が怒り、駅や列車を占拠、こわした「上尾事件」である。

国が営んでいた国鉄や電電公社の労組にはスト権がなかった。順法闘争は、一時停止や速度規制を過度に守り、ストの効果を生む手法である。事件前後から、動労や最大労組の闘争などがスト権を求める闘争としても、世論が反発を強めていく。そして、国鉄は分割・民営化の道を進む。

作家の舟越健之輔(66)は当時、都内の広告会社の社員で、上尾の団地住まいだった。事件の朝、駅の中も外も人であふれていた。ホームの事務室で、乗客が散乱したモノを踏みつけていた。

舟越は「暴徒」には加わらなかったが、みんなの気持ちがよくなった。列車がいつ来るのか、来てもききょうきょう詰りなで乗れるのか、乗ってもいつ着くのか、眺めない。会社に着くころには疲れ切り、運命ばかりしていた。

舟越は会社で労組を立ち上げていた。ストもした。労働運動は大切だと思っていた。「でも、国鉄闘争には、うんざりだった」

上尾事件の話を日本文芸家協会のニュースにかけると、新潮社の編集者から執筆を勧められた。舟越は、4年半かけて国鉄職員、住民ら1500人に話を聞いた。取材に没頭したくて会社をやめ、83年にルポ「箱族の街」をだした。団地という箱、列車という箱とおしこめられた人々を描き、日本ノンフィクション賞の新人賞を受けた。いまも市内に住む舟越に、上尾駅に来てもらった。「当時の上尾住民には、自分たちが国鉄闘争を撃滅した、という思いがあったん



中村宗一さん

手をつなげ ガンバロー⑧

ニッポン 人・脈・記

国鉄の客暴徒になった

じゃないか」とふり返った。

高崎線の下りの終点は、群馬県の高崎駅。駅にほど近い国労高崎会館にある「ぐんま労働安全衛生センター」で、代表の中村宗一(66)が、アスベストや労災の相談にのっている。「地域への恩返し」といふ一念である。

中村が地域を意識したきっかけは、上尾事件から2年後、市内で「スト権」を求めるデモをしていた時に浴びせられたヤジだった。「お前ら、列車止めるだけじゃなくて、道路まで止めるのか」

中村は当時、国労高崎の青年部長で、デモの先頭に立ってきた。それまでは「がんばれ」と声援や拍手を受けていた。

地元の工業高校をでた中村は、65年に国鉄に入り、国労の組合員になった。自分たちが賃上げを勝ち取れば、日本全体の賃上げになる、と誇りに思っていた。

上尾事件は動労が引き金だが、利用者からみれば、同じ国鉄の労組だ。ヤジで罵られた。「自分たちは、地域の共感を受けている」

順法闘争は続いた。国鉄や電電公社などの労組でつくる「公務員」は75年、スト権を求めて8日間のストをした。大失敗だった。

地域の共感 失った闘争

スト権ストの後、中村は仲間と呼びかけた。「独りよがりの運動ではダメだ。地域の労働者を支援しよう」。木工所が倒産した時は、1週間ほど寝るの番をした。賃金を払わぬままで、工作機械など金目のものを持って行かれないよう見張った。

国鉄の分割・民営化で、最後まで反対した国労が攻撃的になった。中村は国労に携り、05年までの8年間、国労高崎の委員長をつとめた。元総評議長の市川誠や後に参院副議長をした弁護士角田義一(70)らが応援してくれた。一番支えてくれたのは地域で働く人たちだった。

国労組合員は、民営化前の20万人から1万4千人になった。国労高崎も700人に減った。切り盛りする書記長唐澤武臣(49)は、JR東日本が職員配置をやめている「みどりの窓口」での職員復活を求めている。

代わりに設置されたのは券売機「Kae ru」(カエルー)。合理化をねらい、遠く埼玉県にいるオペレーターと話して買う仕組みだが、高齢者や外国人、目や耳の不自由な人には不向きではないのだ。唐澤は苦笑する。「地域の人に「かえないくん」と呼ばれ、恥ずかし」(鶴見知子)



①舟越健之輔さん。JR上尾駅前で
②乗客にこわされた駅舎内。1973年3月13日、国鉄上尾駅で



■人をめぐる物語をお寄せください。電子メールはjimiyaku@sasahi.com.jp

● ● ● あったか相談村(富山)



富山県
自治研センター

組合が公共交通を考えるワークショップ



中部地区労働福祉
平和センター 主催

た。続いて遺族代表らが献花し、嶺北十一市町の戦没者二万五千六百六十五柱を慰めた。

県遺族連合会、各地区遺族会の運営や遺族の福祉向上に貢献した八人が知事表彰を受けた。表彰されたのは次の皆さん。

居村幹夫(福井市) 中嶋シズ子(同)植村英二(大野市) 山本輝子(鯖江市) 彌氏文字(越前市) 石丸庄左衛門(坂井市) 野崎重志(永平寺町) 林久幸(越前町)

公共交通親しんで
越前市でまず催し

福鉄、京福の労組

公共交通の利用促進を図ろうと、福井鉄道と京福の両労働組合は二十五日、越前市武生中央公園で開かれる「第二十四回丹南いきいき夏まつり」で、バスとふれあうコーナを設ける。企業の枠を超えた初の試みで、親しまれる。市民の足に向けヒントを探る。

福祉や環境などについて学習する中部地区労働

福祉平和センター(越前市中央二丁目)が両労組に呼び掛け実現した。七月に両労組がワークショップを開き、公共交通の存続、充実には市民の盛り上がりが必要と判断、同まつりで公共交通の重要性をアピールすることにした。

当日は、環境面での貢献や交通弱者への必要性を訴えるちらしを配布。市民から要望や改善点に関するアンケートも募る。路線バスを持ち込み、運転席やエンジンルームを公開するほか、ミニSの試乗、鯖江市民バス沿線の名所をパネルで紹介し利用を促す。入場無料。

結果

◆パレール◆第30回鯖江市家庭婦人リーグ戦(福井新聞社後援(市総合体育館)今立四ツ葉ママ210AS A日1、清水ク211みゆき、河和田、吉川ク211みゆき、神明ク210南条ク、みゆき210東陽ク

労働組合による公共交通を守る活動



恋は、電車に乗ってやって来る！

「ラブ電」

主催 ラブ電実行委員会





3 「市民」としての顔

- 公務員も家に帰れば、市民
町内活動、PTAの役員、自治会の役員
- でも言いたいのは
そういうことではなくて…

「市民」の代理＝プロパー
としての地方公務員になろう。

住民自治・市民自治のステージへ！

3 「市民」としての顔

- 行政のサービスが届かないすきまを
NPOが担っている…？



- 地域組織やNPOが担うことができない
サービスのすきまを
行政サービスが担う…？

< 新・補完性の原理 1 >

3 「市民」としての顔

- 「家族」でできないことは、「地域」で
「地域」でできないことは、「行政」で



- 「自助」「共助」「公助」の
ベストミックスを地域ごとに考える。

<新・補完性の原理 2>



「自治研」「自治研活動」とは？

- 仕事をしていると、「こんなふうにしたら、もっと喜んでもらえるかな」とか、「どうしたら伝わるかな」「こうすればより早く提供できる」って思うことがあります。
- その思いを職場の仲間、市民と一緒に何とか実現しようとすることです。
- 「ごみの分別収集」や「急病人に対する夜間・休日の救急医療体制」なども、自治研活動の中から生まれた取り組み。

<http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/index.html>

給食関係の自治研活動の例

「学童保育へのランサービス」 福井県越前市職



「給食まつり」 福井県鯖江市職



子育ちショップ「ビタミン愛」
ちやれんじパパ・ママ事業



鯖江子ども劇場 &
福井県鯖江市職





「新しい公共」時代の自治研像

これまでの組合活動や自治研活動のイメージは？

制度政策要求という形で首長や当局と交渉し、自治体の制度・政策を変えていく。



ローカル自治研を全国に作ろう！

- ①地域や行政の課題を、「ローカル自治研」という措置を使い、いったん市役所や組合の外に出す。
- ②そこで、様々な立場の市民とともに、一市民として学習を深め、学び合う。
- ③参加者がともに成長しながら、行政を含む地域のあり方そのものを変えていくことを目指す。



<丹南市民自治研センター活動記録> 2008-2011

- 6時間ラジオ番組 まちなかコラボ「いまだけラヂオ」
- こども交流プロジェクト ビオトープとホテル鑑賞
- 情緒障害児への支援を考える学習会 in 越前
- 「旬采食楽部(しゅんさいくらぶ)筍掘り」
- アースデー越前
- 「恋は電車に乗ってやってくる」ラブ電
- 市民フォーラム 残そう「福武線」電車は地域の財産だ
- 市民フォーラム『分権時代の外国人市民政策』
- 市民フォーラム『老親介護・家族介護の行方を探る』
- 「子どもの貧困を考える」市民自治セミナー
- 組織(自治体)はどうすれば変われるのか
- 第1回自治研実践者交流・全国フォーラム in 丹南
- 「新しい治水のあり方」を考える
- 10周年書籍『地域を変える自治研力』発刊

『地域を変える自治研力』



<目次から>

- 恋は電車に乗ってやってくる「ラブ電」
- 夏休みの子どもたちに給食を
- 児童センターで調理員さん奮闘
- 市民立、労働者立の「児童養護施設の挑戦」
- つながる、ひろがる、メダカの輪 下水道からメダカすいすい
- 地域の公共交通を守れ 福井鉄道福武線存続への市民活動
- 越前の合併論議 市民自治条例など、自治研センターが動く
- 自治研センターでラジオ番組「お気楽サンデー」四年目へ
- 広がるアースディー 合併後に市内最大の環境フェアに発展
- NPO中間組織の活動から見えてきた「協働」の意味

大阪市従総合政策シンクタンク



プロジェクトA

「新しい公共サービスと自治体改革の課題」

牛山久仁彦

市従には多様な職場があり、職種によって視点も多様です。各現業職場の特徴ある取り組みや改革を進めていくことが、真に市民の安心・安全を守ることにつながると思います。

分権的なシステムを構築する運動を展開し、市民に選んでもらうような職場をつかっていく。そのための法制度整備、改革等について議論をしていきたいと思っております。

この間、議論を繰り返しているうちに、分権改革の流れの中、自治体現場では、職員の政策形成能力を高め、住民のニーズや問題に積極的に応え、自らを評価することが重要になってきています。民営化・民間委託への反対のみを掲げている状況でない中、市民と職員がきちんと議論をして、サービスのあり方を決めていくための地方分権を推進していかなければならないのです。



市民と職員がきちんと議論をして、サービス供給のあり方を決めていくための地方分権を推進していかなければならないのです。

各現業職場の特徴ある取り組みや改革を進めていくことが、真に市民の安心・安全を守ることにつながると思います。

■牛山 久仁彦 (明治大学助教授)

「質の高い公共サービス(QPS)」 キャンペーン

- PSI(国際公務労連)が提起
- 質の高い公共サービスとは？
 - コミュニティーのニーズに応える。
 - 民主的に運営され、オープンかつ説明責任を持つ。
 - 設計と実施に労働者とコミュニティを関与させる。
 - 完全な労働組合権をもつ労働者によって提供される。



Public Services International

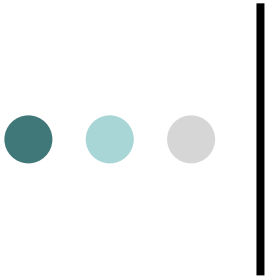


“Jichiken”を世界の合言葉に



AUPE (シンガポール公務労組)
の丹南視察





ふたたび「新しい公共」について

- 公務員と市民との新たな関係性
当事者性の回復
「いっしょにやりましょう！」
- 市民の自立・自己決定を支援
エンパワーメント(カづけ、勇気づけ)
- 話し合いの中から
スーパーマンはいらない！
「討議デモクラシー」 篠原一氏



「新しい公共」って？ 3

- 人々の支え合いと活気のある社会。それをつくることに向けたさまざまな当事者の自発的な協働の場が「新しい公共」である。これは、必ずしも、鳩山政権や「新しい公共」円卓会議ではじめて提示された考え方ではない。
- これは、古くからの日本の地域や民間の中にあっただが、今や失われつつある「公共」を現代にふさわしい形で再編集し、人や地域の絆を作り直すことにほかならない。

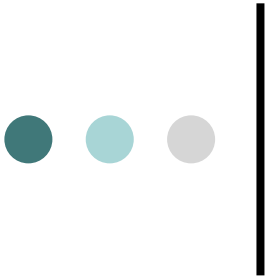
「新しい公共宣言」より



“結びつき”が私たちを強くする

- **結びつく社会**というのは、ひとつの結びつきによって全部がつながるとい社会のことではありません。いろんな結びつきが重なりあい、全体として結びついた社会です。
- 労働組合の場合、職場の結びつきがあって、労働組合同士の結びつきもあります。以前、地区労がもっと機能していた時代は、地域の結びつきもあった。この地域の結びつきができてくれば、組合員だけではなく **非組合員や町のおじさん、おばさん**との結びつきもでてくるわけです。
- 労働組合が、平和運動やさまざまな運動を通じて、多様な結びつきを持っていた時代には、労働組合が力を持っていたのだと思います。

2009年、北海道で開催された第32次全国自治研集会のトークセッションで、哲学者の内山節氏が「グローバル化におけるローカルの重要性」について問われての発言から



ネットワーク型のつながり社会へ

- 北陸都市国際交流連絡会・研究会

北陸3県の自治体、国際交流協会(財団)の担当者有志で作るネットワーク型の研究会

- 子育てサポーターの会「COSAPO」

子育てサポーター講座修了者が自らグループを立ち上げ、地域の子育て支援に関与

- F-top21学習会

地域のNPOや議員さんを招いて、1~2ヶ月に1回、定期的に学習会を開催

自治を育む試み

○ 市民立法

- 鯖江市市民活動によるまちづくり推進条例
- 越前市自治基本条例
- 鯖江市民主役条例

○ 自治体議会改革

- 議員同士が討議する議会
- 市民も参加できる開かれた議会
- 積極的に情報を公開し透明性のある議会

○ 公共サービス基本条例

- 地域の公共サービスの質・量を市民が議論
- 「地域公共サービス市民会議」



● ● ● | 矢代操氏の言葉に学ぶ

○ 「教ユルハ学ブノ半ナリ」

岸本辰雄氏の追悼文から

○ 「唯タ学科ノ表題ヲ示セハ 即チ足ル生徒ハ之ニ因リ 自カラ研究スル所アル」

宮城浩蔵氏の追悼文から





めざすべき社会は…

- 「より良い公共サービスこそがより良い地域社会・コミュニティを創る」。
- そして「より良い地域社会・コミュニティこそが、より良い公共サービスを創る」

